

	病院名	①これまでの コロナ患者の 受入有無	②通常医療の 制限有無	③通常医療を継続するための対応	④想定通り継続できたか。 工夫した点は何か。	⑤コロナ患者を 受入れていない理由	⑥平時から備えておくべきと考える事項
1	青梅市立総合病院	受入れた	—	令和3年1月から現在に至るまで既存病棟を一つコロナ専用病棟としている。ICUは全8床のうち2床を個室陰圧化してコロナ対応としている。第5波ピーク中の8月6日から9月17日までは、2つ目の病棟をコロナ専用病棟として対応した。	2つのコロナ専用病棟対応時期（準備も含めて8月2日～9月19日）は予定入院制限を行い、救急応需もやや不十分となった。一方、コロナ入院患者の過半数は西多摩医療圏外（23区・都下）であり、また西多摩医療圏のコロナ患者に関して在宅・転院からの受入れが逼迫した。このため、第5波後半のコロナ受け入れは西多摩を優先した。	—	地域での情報連携体制の構築。医療圏で通常医療を犠牲にしてコロナを受け入れる体制を作るのであれば、まず医療圏のコロナ患者受入れにしっかり対応したい。受入れ病院（公立3病院）と保健所で患者情報・ベッド状況を密に情報共有する体制を作りたい。
2	公立福生病院	受入れた	一部制限した時期がある	コロナ患者との動線を分離するため、コロナ専用病床を作ることや、時間的・空間的なゾーニングを行い対応した。	院内でクラスターが発生した時は通常医療を大幅に制限したため想定通りの通常医療の提供はできなかった。また、入院患者への入院前PCR検査を全件実施し感染予防対策を講じている。	—	院内の感染予防対策体制の強化、職員への感染予防マニュアルの徹底、新興感染症の流行を想定した院内BCPの見直し、非常勤医師の所属施設との派遣基準についての共通認識、西多摩医療圏での連携体制（行政、各関係病院等）の強化
3	公立阿伎留医療センター	受入れた	一部制限した時期がある	急性期病棟の一部を閉鎖、コロナ専用病棟に転用し、通常の入院患者との動線の分離を行った。発熱外来受診者の直入受入のための動線を確保するため、ゾーニングを行った。また、院内に出入りする患者及び外部業者への体温測定の徹底を行い、職員に関しては朝・昼・夜三回の体温測定とともに健康観察の徹底を行った。	院内クラスターの発生に伴い、一部想定通りに通常医療を提供できない時期があった。工夫としては、内視鏡検査等の中止、緊急性の低い手術の延期、特定検診・人間ドッグの中止、また一部診療科において診療制限を行うなどした。	—	院内での各部署間における情報伝達システムの構築、地域医師会及び近隣病院等との連携、また、行政からのいち早い情報提供等
4	医療法人社団仁成会高木病院	受入れていない	—	—	—	コロナ病床を確保するために動線を完全に分けることが困難。院内感染の不安が非常に大きいため。	地域での連携体制、特に三公立病院との機能の棲み分けが必要

	病院名	①これまでの コロナ患者の 受入有無	②通常医療の 制限有無	③通常医療を継続するための対応	④想定通り継続できたか。 工夫した点は何か。	⑤コロナ患者を 受入していない理由	⑥平時から備えておくべきと考える事項
5	大久野病院	受入していない	—	—	—	回復期・慢性期の医療機関であるため	院内での感染対策（持ち込ませない水際対策：職員・入院時・お見舞い） 疾患に関する迅速で正しい情報提供（10daysルールのように10日経てば感染力がないという情報が行き渡るのに時間がかかった）地域連携（どの様な時に、どこへ連絡して、何をすれば良いのか、情報が混乱していた）慢性期への移行（急性期病院に入院する必要がなくなった状態の方は慢性期へ早急に移行することで急性期病床を確保できる。慢性期に対しては受け入れ時の手当は12月から支給されたが当初は用意されなかったその損失は支給されていない、急性期と同様に空床確保が必要であったと思う） リモート診療やドローンによる薬剤の配送（対面せずに診療や薬剤の配送が可能 リモート診療の方法を限定せず あらゆる方法で許可しておく）
6	目白第二病院	受入っていない	—	—	—	①病院の構造上、ゾーニングが不可能 ②医師看護師の確保不能	周囲の施設、医療機関、市内のコロナ発生状況の把握
7	東京海道病院	受入っていない	—	—	—	精神科病院であるため	地域での連携体制が最も重要と思われる。コロナ治療の受け入れ病院の空き状態や回復期の病院の受け入れ態勢の把握を保健所を中心に、地域の医療機関で情報共有ができる体制づくりが必要。地域の病院や診療所などの役割分担を明確にする。
8	奥多摩町国民健康保険 奥多摩病院	受入っていない	—	—	—	・43床の1病棟のみの運営で、水場(共用トイレ、共用洗面所、共用風呂場)が1カ所しかなく、隔離スペースを作ることができないためです。 ・発熱、肺炎など新型コロナ感染症が否定できない入院患者さんは今まで何名もいらっしゃり、半隔離の個室2部屋を確保して運用していますが、その部屋の前をトイレに行く患者さんが普通に行ったり来たりしている状況です。	・新型コロナ感染症患者さんを受け入れて下さる病院との連携です。そういった病院の負担を少しでも減らすため、コロナ、非コロナに関わらず、転院が必要な患者さんを積極的に受け入れる態勢としています。
9	高沢病院	受入っていない	—	—	—	慢性期の医療機関であるため	最新の情報を手にする事の出来る環境づくり

	病院名	①これまでの コロナ患者の 受入有無	②通常医療の 制限有無	③通常医療を継続するための対応	④想定通り継続できたか。 工夫した点は何か。	⑤コロナ患者を 受入れていない理由	⑥平時から備えておくべきと考える事項
10	医療法人社団崎陽 会 日の出ヶ丘病 院	受入れていない	—	—	—	回復期・慢性期の医療機関 であるため	最も重要なのは、圏域における状況把握やコロナ対策の 意思決定の仕組み、そして責任主体や情報伝達の明確 化、関係者の役割の再定義が必要である。今回の反省に 基づいて不足しているところは補う必要がある。加え て、新型コロナウイルスを含む新興感染症については、 刻々と変化するその発生状況や医療需要に応じて医療機 能に見合った具体的な連携体制の確立が不可欠である。 そのためには圏域を主とした人的・物的医療資源の精緻 な把握と医療機関の意向・特性を再確認する必要がある。
11	武蔵野台病院	受入れていない	—	—	—	回復期・慢性期の医療機関 であるため	院内体制 地域連携 発生時の受け入れ先の確保なども 含めた行政からの情報提供 コロナなど感染症に対して一般の方や介護従事者への教 育
12	多摩リハビリテー ション病院	受入れていない	—	—	—	基本的に療養型・回復期病 院であるため	新規入院患者のコロナ感染防御の徹底・職員の予防の徹 底
13	羽村三慶病院	受入れていない	全く制限していな い	—	—	回復期・慢性期の医療機関 であるため	行政、各種団体からの最新の情報を常に確認し、病院内 で活かす。
14	東京都西多摩歯科 医師会	受入れていない	—	—	—	歯科医療機関であるため	スタンダードプリコーションの徹底と、口腔外バキュー ムや大型空気清浄機の設置等によるエアロゾル対策
15	檜原村役場	受入れていない	—	—	—	入院施設がないため	地域での連携体制